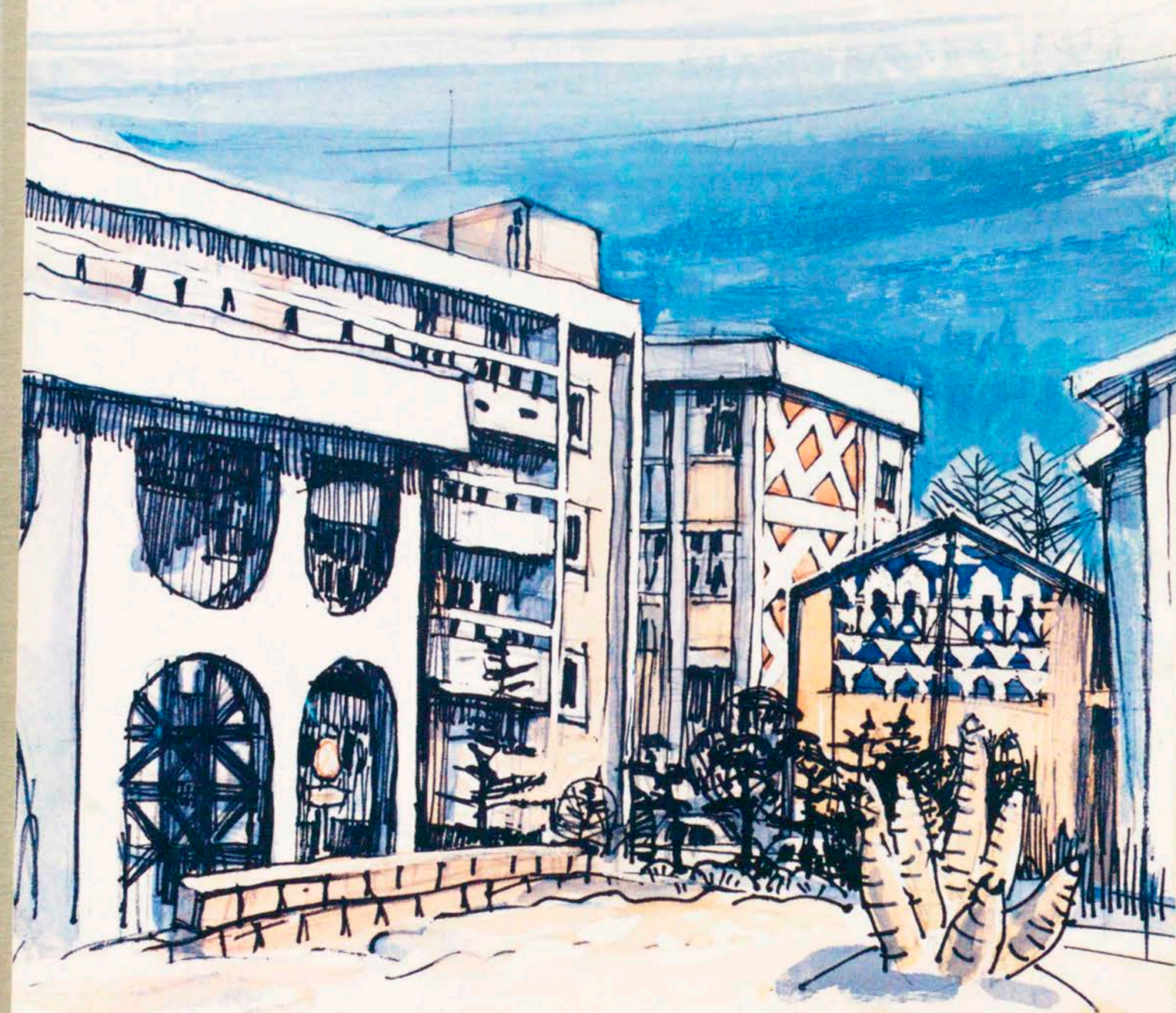


# ひめまつ

32



Katabe

ひめまつ 目次 第三十二号

表紙……矢田部 康幸 題字……石川 木魚 写真……写真部・伊東 礼一

◇本校創立八十周年も間近かに……校長 須賀 淳……………1

生徒会員あつての生徒会（新生徒会長に就任して）……………丸本 経美……………4

評議会を活発な討議の場に（生徒会長長の任期を終えて）……………浜口 尚美……………5

校内読書感想文コンクール入賞作品……………7

愛と知と悲しみ……………岩本 秀子……………幸福に別れを告げよ……………水島 泰子

変身……………見目 和子……………羅 生 門……………内海 文子

怒りの葡萄……………鈴木 啓子……………智 恵 子……………抄……………星野 はるみ

人間失格……………志賀 良子……………アンネの日記……………佐藤 由有子

人間失格……………柿沼 美佐子……………

▽楽しいわが家の夕げ（旺文社全国学生コンクール佳作）……………高橋加津江……………18

詩

小沢泰子・榎本頼子・原口美知子・佐山京子・須賀正子  
野中美子・長島喜美子・北条志麻外

委員会クラブ・この一年……………美化委員会・ソフトボール部・和裁部外……………20

短歌……………49 — [俳句]……………33

「特集」ヨーロッパの旅（イタリアを主として）……………伊 沢 雪 夫……………52

インターアクト研修旅行……………北海道の交歓会・浜口 尚美……………IC研修に同行して・太田 茂雄……………58

IC年次大会に参加して・白井茂美……………土浦会長さんからおほめの言葉・小竹俊夫……………62

随筆コーナー

文部省唱歌・須賀 淳……………み霊に捧げる黙祷……………伊沢 雪夫  
私のヨーロッパ旅行……………桜井 芳子……………楽 久……………我 記……………松井 季男  
木々たちとの対話……………荒井千恵美……………

わしらのホームルーム……………73

各種弁論々旨、作文コンクール入賞作品……………大山加津江・若松尊子・小林典子・宮本幸枝……………83

近詠十五句……………手塚 武……………91

▽下野新聞（調理科紹介・デザイン日本一）朝日新聞（家政科紹介）の記事から……………94

「特集」学園ニューストピック・学友会の活動……………95

修学旅行・遠足・キャンプ……………109

私を取りまくもの……「苦勞をさげず自分を磨こう」……………丸本 経美……………113

家政科技術検定について……………検定合格一覧……………115

昭和五十二年就職決定状況……………118

昭和五十二年度学校行事……………120

職員住所録……………122

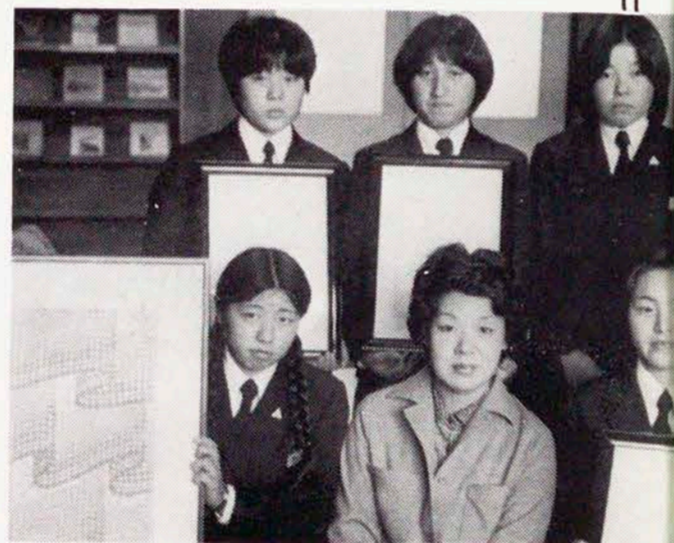
▽編集後記・奥付……………122



← 県文化功労章を受けた  
手塚先生夫妻（中央）  
知事さん（左）  
県教育委員長さん（右）



↑ 表彰状をいただく手塚先生、さすがに今日は緊張の面持でした。  
（栃木県庁正庁にて）



↓ 全国服飾デザインコンクール  
第一位の野中さんと作品。二位  
と学校賞も独占しました



宇短大十周年記念演奏……栃木会館小ホールにて

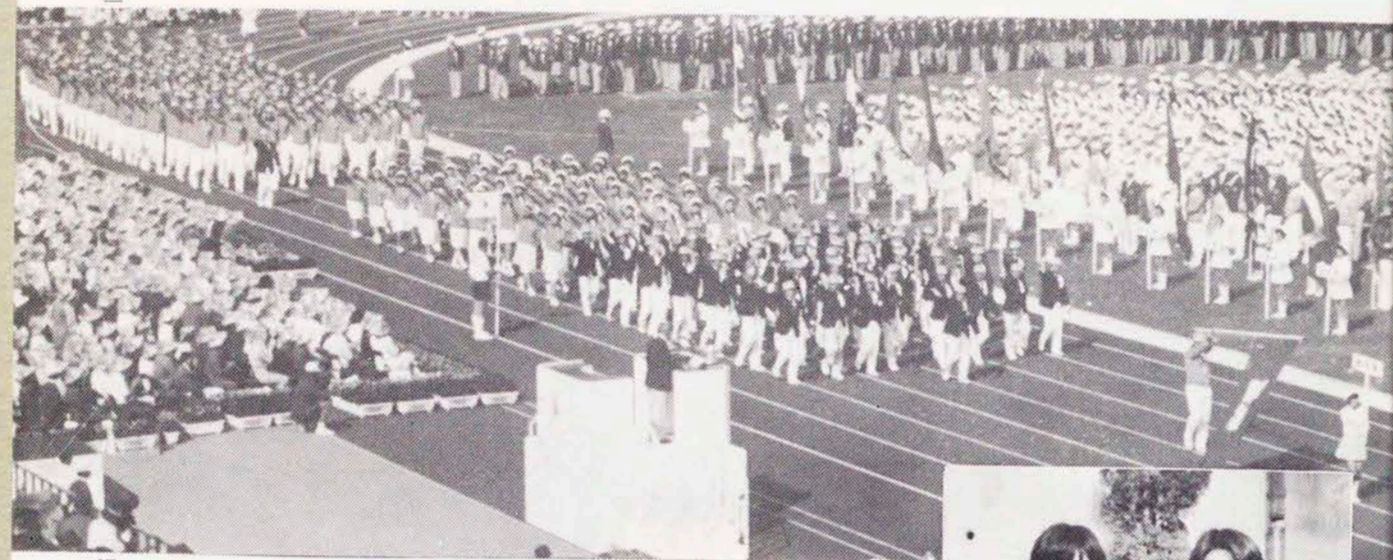
校 歌



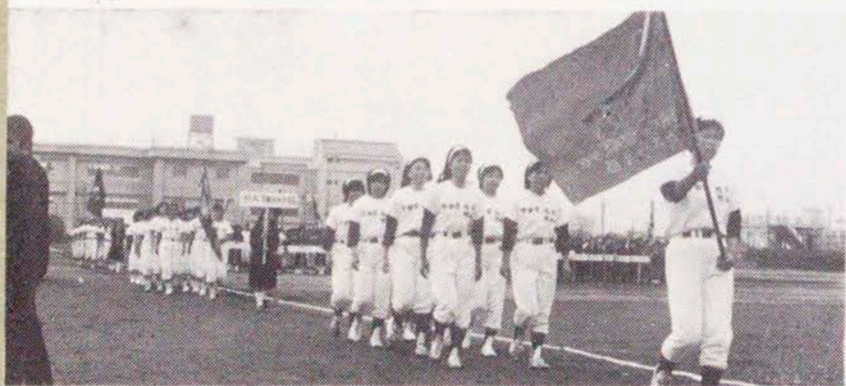
宇都宮短期大学附属高等学校校歌

二 荒の高嶺を 遠かに仰ぎ  
 学びの道筋を まさきくあれと  
 かたみに誓いて いそしみ励む  
 教への庭こそ げに尊けれ  
 あわれ尊 一の 学びや  
 庭面に茂れる 姫松小松  
 変らぬ操は 千代万代と  
 かたみに祝いて いそしみ励む  
 学びの庭こそ げに芽出度けれ  
 あわれ芽出度 この学びや

本校庭球部員が  
あすなる国体(青森)へ！堂々の入場行進



活躍した本校庭球部の  
石川富美代と高木敏子の  
両選手  
(青森国体にて)



宇短大附属高のユニホームも鮮かに  
東日本ソフトボールに出場

雪山を背に、滑走また滑走！  
全校生のスケート教室  
…日光所野スケート  
リンクにて…



→ことしもがんばつて、行こう！ 勢揃いした生徒会役員

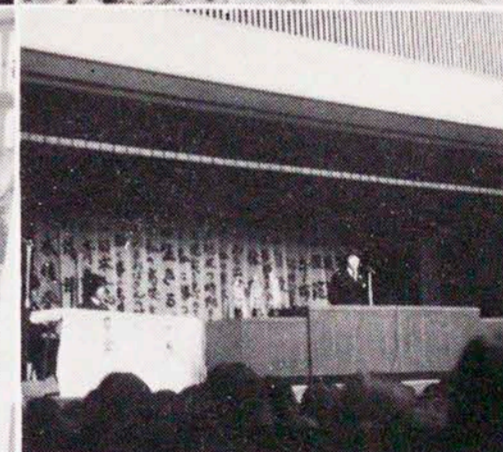
栄冠を目指して！  
↓ 校内合唱コンクール



優勝へ！もう一息！  
↓ 校内球技大会



「童話の世界」の一場面  
学校祭へ、一年十一組が参加



↑ 弁論！もちろん私が  
優勝です…校内弁論大会



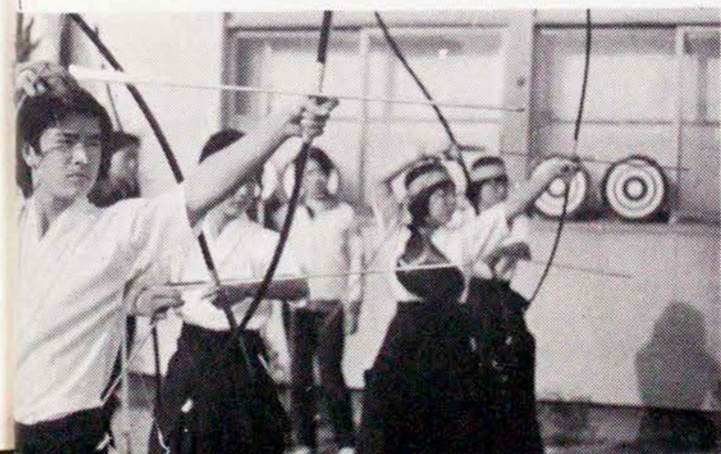
←青春の讃歌  
美のシンボル！  
バトントワリング



↓パリのファッションでは、洋裁部作品



↓お見事です。和裁部のお腕前！



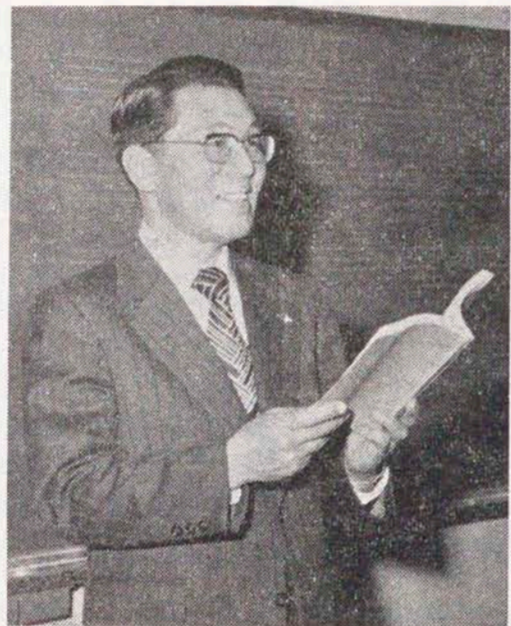
↓一発百中！ご立派な姿勢に注目

↑「よくやつて呉れました。ごくろうさまでした。」  
町長さんから表彰状をいただき、学友会石橋支部の  
代表へ有難うございました。

### 随想 本校創立八十周年も間近かに

「須賀学園史料集」の編さん序文から

校長 須賀 淳



3年生の政経授業中の校長

人間の仕事のなかでもっとも尊いものは教育であり、またもっとも難しいものも教育であろう。それは対象が人間であるからである。人は十人十色それぞれ個性を持っている。教育はその個性にしたがって、その人をそれぞれに伸ばしてやらなければならない。しかも社会はつねに変動している。教育はその変動に即応してゆかなければならない。そこに教育の困難性があるのである。

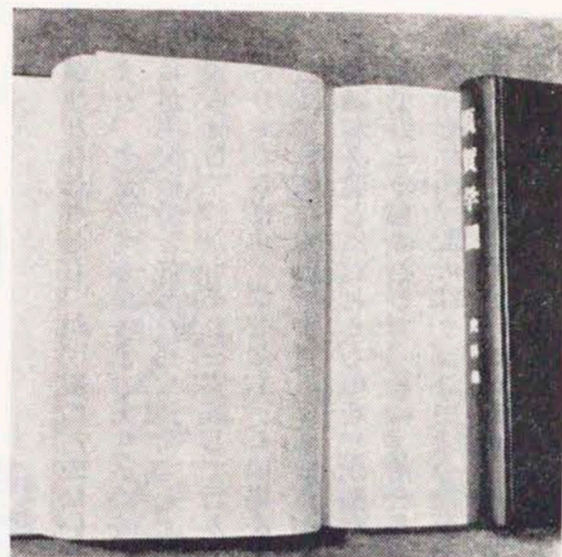
本校は、今から七十七年前、明治三十三年に、私の祖母である須賀栄子先生によって創立された。当時の規模は小さかったであろう。しかし、祖母の理想は高く、気概は強かった。そのため一生を独身で通して、学校の経営、建学の理想実現のために全精力を傾注したのである。創立者の三十有余年にわたる本校の経営は、まことに不撓不屈の権化といつてよい。明治、大正期の社会には、官尊民

卑の弊風が根づよく、私学は軽視されていた。それに、時勢の変動と経済の消長は測り知れず、そのたびに学校の経営は影響されて、困難に陥ることもたびたびであった。その間における創立者の辛苦がなみなみならぬものであったことは、この史料集に収められている昭和五年の創立三十周年に際し、理事須賀正雄先生（創立者の兄、現理事長須賀友正先生の父）が起草した「学校設立ノ動機並ニ経営状況」にくわしい。

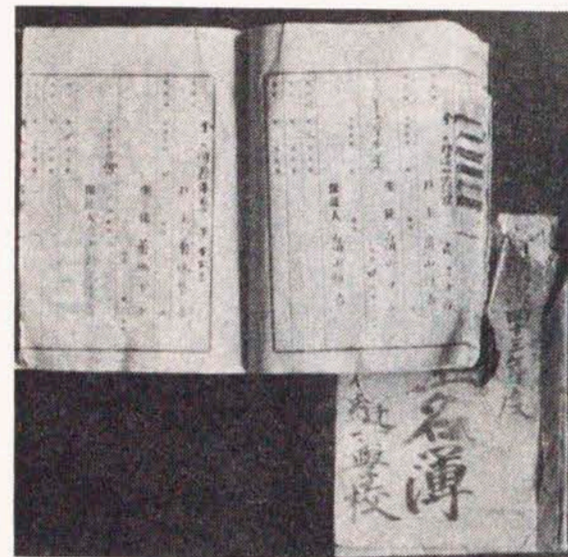
私学はみな独自の崇高な理想と信念によって設立されている。いわゆる建学の精神である。しかし時世はつねに移り変わりつつある。教育もまたその要求に応じて、新しく脱皮してゆかなければならない。この間の調和こそ最も大切である。古きをのみ守っていいはならないし、また新しいものばかりを追っていてもいけない。孔子も「故きを温ねて新しきを知れば、以って師となるべし。」といっている。その温故知新の一環として、この史料集が編さんされたのである。

本校は、昭和二十年七月十二日夜半の宇都宮大空襲の戦火により全焼の災にあった。当時の校長須賀友正先生（現理事長・学長・私の父）は、身を挺して学籍簿をはじめ学校の重要書類を背負って防空壕に避難した。しかし、消火の水と土塵の湿気のため、これらの書類は、現在腐蝕が甚だしく、一枚一枚でいねいにはがしても、ぼろぼろの傷みは破損はいよいよひどくして、とうていひもといてみる事が困難の状態にある。

幸いに、そのうちの卒業生の学籍簿については、創立七十周年の記念事業として、本校職員と卒業生の御協力によって複写を行い、立派な卒業生名簿ができあがった。残る須賀家に古く伝わる古文書と本校創立当時の貴重な歴史資料については、今において複写の副本を作っておくことが大事な急務となっていた。この意味で、本学園の貴重な歴史資料をまとめた「須賀学園史料集」は、この学校にとって何物にも代えがたい貴重な記録となるであろう。



須賀学園史料集（本校図書館蔵）



明治時代の学籍簿の一部

想えば本校は、卒業生二万三千余名、在校生二千六百名を擁する総合高等学校の偉容を誇りうるにいたった。しかしこの偉大は一朝一夕にかちえたものではない。創立者がか弱い女性の一身を賭して、営々として築きあげた辛苦の跡を顧みると、本校八十年の歴史は、努力の連続であったことを忘れてはならない。世の諺にいわく「親苦しみ、子栄え、孫潰す」と。私はつねにこの諺を胸に秘め、自粛自戒もって創立者の理想を継承して、本校の経営と教育に邁進している。

おわりに、この「須賀学園史料集」は、本校図書館長である河住玄先生が、深い国語・漢文の学識を駆使して、須賀家の古文書や本校創立当時の歴史資料を解読し、忠実に復元、整理されたものであって、ここに先生の御努力に対し、深く感謝の意を表わすものである。

この史料集を中心として、昭和五十五年を迎える本校の創立八十周年には、その記念事業の一つとして、本学園の立派な校史が編さんされることを祈念してやまない。

# 検定の一級合格百%

## 宇短大附属高校の家政科

〔朝日新聞より転載〕

普通科、普通科、商業科、家政科、調理科と、五つの学科を擁する。「なかでも家政科は、本校の看板です」と、須賀淳校長はこう看板である理由は、まず、歴史。

同校の創立は、明治三十三年。いまの校長の祖母にあたる須賀栄子女史が「健全な家庭こそ、国家社会の基礎。そうした家庭を築くには、健全な家庭婦人の養成が第一」と裁縫教習所を開いたのが始まりである。その翌年から「女学校」を名乗り、さらに昭和二十二年の学制改革で、校名から「女」の字は消えたが、建学以来の家政学科の伝統は、常に同校の教育方針の中に生き続けてきた。いま、同校の家政科は、各学年でそれぞれ八クラス四百人と、全国でも一、二を争う大所帯である。

家政科の特長となっているのは、徹底した実技教育だ。同科の教育科の教育課程の約四

割までが、被服や手芸、食物、栄養、家庭経営といった専門科目に占められている。しかもこれらの授業は実技が中心。従って、生徒たちの和、洋裁や料理、手芸などの腕前の上達ぶりは目ざましい、という。

たとえば、全国家庭科実技検定というのがある。被服と食物の二部門について、それぞれ難易度により一級から四級までのランクに分けられている。普通、一校当たりの一級合格者は、一ケタがせいぜい。ところが同校では、昨年も被服を百五人、食物を九十三人が受験して、いずれも一〇〇%の合格率だった。また、昨秋開かれた全国高校服飾デザインコンクールでも、個人賞の一、二位、学校賞の一位を独占した。

生徒たちがこれほど腕が立つと、「座学」で育った先生では、指導しきれない。だから最近では、先生も「自力養成」。つまり、同校

家政科から大学へ進んで教員資格を取った人を、できるだけ採用する方針でいる。こうして母校の教壇に立っている先生が、すでに四人。

卒業生の大部分は就職するが、技術面の確かさが買われて、就職率も毎年一〇〇%とか。また、和裁などは、自宅で生徒を取って教えるケースも多い。県内の和裁教師の半数以上は、同校の卒業生、ともいわれる。

勉強の成果が、そのまま生活面に活用できる――その実技中心の教育が、生徒たちの学習意欲を引き出す効果は、意外に大きい、と須賀校長。同校の年中行事として、家政科の生徒全員が縫い物の腕を競い合う「運針競技会」というのがあるが、その大会で上位に入賞するのは、必ずしもペーパーテストの成績が良い生徒とは限らない。

「私が表彰状を渡すのですが、ふだんはバツとしない生徒の顔が、その時はかりは大きな拍手の中で、実に明るく輝いているんですね。人間だれだって、何かの才能を持っている。それをいかにつぎ出し、育てていくか……実技中心の教育も、その答えの一つだと思っています。(一月十五日付「本校名物」より)

# 集 学園ニュース

## トピック

### 心の糧を求めて

#### 校内読書感想文入賞者

昭和五二年夏休の課題として、全校生から提出された読書感想文コンクール応募作品はその数およそ二、五〇〇編。内容・表現・分量等について審査のうえ、次のとおり入賞者が発表された。各学年第三位までは賞状と副賞(図書券)および賞品、佳作には賞品を贈って表彰した。

- ▽三年
  - 一位「愛と死と悲しみ」を 16組岩井秀子 読んで
  - 二位「変身」 12組見目和子

#### ▽二年

- 三位「怒りの葡萄」 11組鈴木啓子
- 一位「人間失格」を読んで 12組志賀良子
- 二位「人間失格」 6組柿沼美佐子
- 三位「幸福に別れを告げよ」 2組永島泰子
- 三位「人間失格」 5組斎藤富子

#### ▽一年

- 一位「羅生門」を読んで 1組内海文子
- 二位「智恵子抄」 12組星野はるみ
- 三位「アンネの日記」を 16組佐藤由有子 読んで
- ▽佳作入賞者
  - 【三年】人間の条件・早乙女幸子。こころ

・粕谷紀子。戦場の村・佐々間弘美・日本人とユダヤ人・高久秀子。れくれえむ・白井悦子。小きき者へ・大草久美子。老人と海・海老原満弓。花咲か・吉原清江。虚構の家・中山中。変身・山本由利子。異邦人・後藤久美子。ジャン・クリストフ・確氷桃子。破戒・須賀正子。山椒大夫・時庭佳代子。城の崎にて平山美志。変身・白井茂美。

【二年】青春論・鶴見広美。真実一路・飯田美知子。生まれ生ずる悩み・植木智子。幸福・館とみ。人間失格・藤田清美。油・木村浩司。ビルマの罌粟・小黒浩子。高瀬舟・戸崎幸子。狭き門・浦生美代子。恩讐の彼方に・桑川悦子。アンネの日記・吉村恵美子。女の一生・清水京子。

【一年】幸いは山のかたに・阿久津節子。アンクルトムの小屋・綾部幸子。風立ちぬ・植木須子。幸福論・中田幸子。生まれ出する悩み・藤井洋子。ジュビター・関口さとみ。路傍の石・我妻浩美。悲しみよこんにちは・黒川紀子。真実一路・金川祐。クスルブ・高野邦子。サーカスの馬・田代道代。高瀬舟・針谷節子。人間失格・後藤小百合。友情・増井ひろみ。ビルマの罌粟・薄久保好江・高瀬舟・蓬田奈穂子。

## 若さ溢れる学校祭

好評だった「童話の世界」

待望の学校祭が去る十一月五、六日の両日にわたり行なわれ、例年以上の文化部展示、それぞれ科の特徴を生かした実演などが華やかに繰り広げられました。また今年、生徒会主催の「広場シリーズ」にビデオをうち新しい企画として、「ライブスタジオ302」が設置されました、フォークから落語まで、素人である私達生徒の手で、テレビ生中継を行い飛び入りも出場するなど、お客さんにも楽しんでもらうことができたようです。チャリティバザーも実行委員の指導のもとで大盛況でした。

その他家政科による洋裁、和裁、手芸の作品展示、調理科による調理実演と即売、音楽科によるクラシック及びフォーク、ポピュラーの演奏などがあり、文化クラブでは書道、写真、美術クラブ展示や和文タイプのタイプ実演、茶道クラブのお点前実演などさまざまな催しがありました。

各クラスの参加も「童話の世界」(一)の十

(一)とか「郷土の祭り」(二の六)「昔の子供の遊び」(三の十二)その他三の十三による演奏等、学生らしい研究発表が行なわれました。また、去年からの試みとして、大食堂に音楽科、普通科の音楽コースの生徒の手によるエレクティオン演奏が行なわれ、今年の学校祭も無事終了し生徒会役員及び、実行委員会などでも活発な意見が出されました。また、来年度への期待を新たに前進してもらいたいと思います。

### 校内球技大会成績

七月八日〜十三日に渡って行なわれた第十四回校内球技大会は、天候にも恵まれ各クラスとも十分な練習のもとに、この大会に参加し、昨年同様バレー・バスケット・ソフト・及び卓球の四種目を正々堂々と戦いました。今年からは、男女別三位までの賞状、賞品授与に加えて、女子別四位、五位のクラスに賞状を授与することになりました。

熱戦の結果、男女別各種目優勝クラスは、次のように決定しました。

三位三の十五、四位三の十四、五位三の十二の十三、ソフト一位二の四、二位三の二三位二の二、四位一の三、五位一の八、卓球一位二の十二、二位三の十二、三位三の六四位三の十一、五位三の十五、八男子の部バレー一位三の九、二位三の八、三位三の十、バスケット一位三の九、二位三の十三位全音、ソフト一位三の九、二位一の十、三位二の九、卓球一位三の九、二位二の八三位二の九

### 字短大讃歌を發表

創立十周年の記念式典

創立十周年を迎えた宇都宮短大では、去る十月三十日栃木会館小ホールにおいて、盛大なる祝賀式典を催した。

学長あいさつに次いで、船田県知事の祝辞があり、十年勤続者を表彰後記念演奏、合唱の披露があり、万雷の拍手裡に閉幕した。

本学絃楽合奏団による絃楽合奏、合唱団による女声合唱「ああ喜びの館よ」につづいて手塚武作詩、楊枝郎作曲、田淵進先生指揮の「宇都宮短期大学讃歌」の大合唱に入るや、場内はしんかんと湧き、感動のつぼと化し

た。よくぞ、短期間にここまで仕上げたものだ。と嘆息やら讃辞やら、指導に当たった田淵先生のご苦労が酬いられたというもの。

歌詞は次のとおり

### このころに

このいのちに 燃ゆる火の歡喜 山の八汐は  
花盛り 花ざかり

雪解け水を 押し流して ころころと みな  
ぎる河

あなたの焰を あかあかと点して 心のつぼ  
みが花開く 花開く

すべての幸に 火を点して 歌の花輪をかざ  
そう 天の涯 地の極みまで

### うた

悲しみをこらえている人びとのために  
わたしは弾き ぼくらは歌う

うたごえは低く 小さくとも

心はこの世の隅々をひたし充ちはじけた

それを開くのは誰だろう  
貧しい巷のお母さん

優しいふるさとのお母さん さようだい達  
に行なわれました。

### 生徒会総会終わる

昭和五十二年度生徒会総会は、六月十五日一時より体育館において全校生徒参加のものに行なわれました。

五十一年度事業および決算報告、五十二年度事業計画および予算案がそれぞれ審議決定され、続いて議事に入りました。

議題は、去年の総会により特別なその他の議題を設定しないという事に決まり、今年度は、評議会からの報告形式として会長より発表されました。その他としては、生徒のさまざまな意見が今までに活発に出されました。大部分が学校側への要望が多いようでしたが結局時間の制限もあり、それらの意見も深くは進展できませんでした。

### 潮来への一泊旅行

意義深いPTA研修会

恒例のPTA研修会は、第八回を迎え、か

ねて候補に上がっていた潮来一泊旅行に決まった。日時は九月十七、十八の両日。

コースは下館から筑波学園都市を経て土浦佐原から潮来一泊、研修会を終え、十八日は鹿島臨海工業都市を見学後鹿島神社を参拝、海岸に沿って一路大洗海岸に向かう。

見晴らしのいい海岸のレストハウスで昼食水戸、御前山、茂木を経て予定通り夕刻帰校散会した。

途中バス車中では手塚武先生から約五十分にわたり、茨城のうち特に筑波山麓の二文人、詩人横瀬夜雨、歌人長塚節についてのお話があった。潮来ホテルに着くや岩下副会長の司会で研修に入り、PTA支部総会についての議題を中心に活発な意見交換を行った。

最も印象的だったのは潮来。早朝から十三橋めぐりの宿願を果たす人、紺紺の潮来船頭さんに見惚れる人などと興さまざま。鹿島臨海工業都市もさすが。化学団地の怪偉、人造港の由来などを元本校教諭の塚原先生が語る説明して下さる。鹿島神社では甘酒を飲み御神刀を購う等、思い思いの一刻を過ごした道路はカンナの花盛り。「カンナロード県境より曼珠沙華」という手塚先生の一句が披露された。



▽出席者 岩下考宏、渡辺征一、上野正男、渡辺衛、高山源吉、岡田喜三、六川彦次、中島至一、古山康夫、釜部金次郎、高岩芳治、金久保稔、小貫栄次、鈴木春雄、石川順、四谷義男、阿久津靖典、岩沢義雄、浜野林、五味淵恒善、落合隆、坂本守、関口一夫、館野哲夫、荒井清雄、石川昭三、大塚正雄、武田仁作、松島不三、杉山俊雄、木野内好子、阿久津芳行、中丸アイ子さん、父兄側

▽須賀淳校長、手塚、太田、三矢、金田先生

### 運針競技会の成績

家政科恒例の校内運針競技会は、七月二日午前実施、同科クラス代表者三名あて、一学年二十四名、二学年二十一名、三学年二十四名が出席、その技能を競い合ったが、各学年の上位入選者は次のとおり。

一年 一位一の八落合恵子二位一の二堀井友美子二位一の四猿山幸枝三位一の五岡田尚美一の七遠井知津子三位一の八岩淵貴代二年一位二の二永嶋泰子二位二の五手塚志津枝二の七小堀優子三位二の三藤原浩子二の五斎藤美智子二の六坂入すみ江三年一位三の五秋山宏子二位三の四高久秀子三の七海老原満子三位

三の三藤田みち子三の五池田公子三位三の六石塚とも枝

### 校内合唱コンクール

十一月二日に、第十四回校内合唱コンクール決勝が、体育館において開催されました。予選通過九クラスのコーラスの美しさは、聞く人の心を、強くひきつけるものがあつたようです。

優秀賞は次のとおりです。

- 一位 三ノ十三 「流浪の民」 三部合唱
- 二位 二ノ十二 「ハレルヤ」 三部合唱
- 三位 三ノ十二 「心の旅」 三部合唱
- 四位 三ノ十一 「もみじ」 三部合唱
- 五位 一ノ十三 「水芭蕉」 三部合唱

### 好評だった

#### 調理科試食会

五十二年度調理科試食会は六月三十日正午から本校講堂において、各学年父兄七十余名が出席、セガレやムスメたち一やがて果立って行く調理師のタマゴ（三年生）たちが、

この時とばかり腕を振るつた馳走（和洋食）に目を細めて満悦の体。

まず校長あいさつに次いで、指導に当たられた横山作松先生から「味」というものについての滋味豊かなお話があり、試食に入り、終わって、石川さんの、「楽しみにしていたおいしいご馳走が出るので朝食は控え目にした。まるで、ホテルの食事みたいだ。うちのセガレがこれ程の胸前になれたのも、みんな学校のおかげだ」等の発言を皮切りに、献立が立派、調理もお見事、色とりどり、見た目もよし、味もよし、感激です等おほめの言葉が続出、好評を博した。

なお来年は、もっと大勢の父兄に来てほしい等の声が多かった。

### 調理の横山先生が

#### 厚生大臣表彰

本校調理科講師横山作松先生が、調理師の技術の向上に大きく貢献したということで全国で二十人の一人に選ばれ、この程厚生大臣から表彰された。

先生は宇都宮ロイヤルホテルの重役で、和食一筋の板前が一流ホテルの役員になったこ

とで、全国の調理師の間で話題になっている。先生は県調理師会事務局長の要職にあるが、特に本校生徒達の教育には情熱を傾けられ、生徒たちから敬慕されている。

### 「童話の世界」で

#### 一年十一組がクラス参加

十一月五、六日に行われた学校祭に私達のクラスは、「童話の世界」で参加しました。だれもが、この童話の世界に、一歩足を踏み入れて最初に目を見張るのが、ステンドグラスの一寸法師や親指姫……。さらに中にはいると、部屋いっぱい広がる大きな木。子供達が熱心に、目を輝かせて見てくれた夢の紙芝居。そして、童話の国から抜け出したチルチルミチルやお菓子の家。子供達は、もろろんのこと喜んでいましたが、おとなの人達も楽しそうに見てくれました。この情景を見て私達は、参加してよかったと、つくづく思いました。

(一〇の十一・大島妙子)

### 楽しくて有意義

#### 家政科役員の研修旅行

草津温泉へ、親睦をかねた研修旅行を！と呼びかけたところ、多数の皆さん方のご参加があり、一行十八名が勢揃い。



鬼押出しの奇岩怪石の中の一団

八月二十日(土)十時学校出発、奥日光から金精峠を越えて群馬路へ。秋草の乱れ咲く中、折からの好天に恵まれて、草津への夢はいやが上にも高まる。野草の係りは手塚先生ガイドブックと手帳を両手に、細々と説明してくださる。

ホテルは高台にあり、眺めもよく、湯元や賽の河原へ行くにも便利。草津の好きをそれぞれ思いで満喫、夜は一室に集まって隔意ない意見を交換、親睦を深めた。翌朝は浅間山鬼押出しの奇岩怪石に驚きの叫びを上げ、軽井沢から桐生、足利を経て、車中研修も品よく、楽しく、予定の五時頃無事帰校した。

参加者は次のとおり

▽丸山樹、常盤陸正、岩下考宏、中山御民、菊地良平、鈴木春雄、滝沢喜一、国谷大三郎、黒崎道男、秋山記典、小堀正之、落合隆の皆さん。(父兄側)

▽学校側 手塚、高野沢、三矢、渡辺欣、戸室、永島の各先生

### 校内弁論大会入賞者

十一月二日に、第十三回校内弁論大会決勝

が、体育館において開催されました。予選通過者十五人の熱弁ぶりは、例年以上に素晴らしい、激戦となりました。その結果、優勝者は次のとおりです。

一位 一ノ十二、沼野文子、「私に勝つ」  
二位 三ノ十一、斎藤セキ子、「脱皮の時期を迎えて」  
三位 三ノ十二、横田由金子、「自殺」  
四位 二ノ十二、小高洋子、「働く事の素晴らしさ」  
五位 三ノ八、浅野とも子、「生きる」  
六位 一ノ三、高橋加津江、「私の高校生活」

### 庭球・高木・石川組が 県代表で国体出場

一月・全国選抜新人大会(関東ブロック)  
栃木県代表出場  
三月・全国私立高等学校軟式庭球選抜研修大会  
山田・碓氷組 リング二位。高木、添谷組 リング二位  
四月・第三十回春季高校大会  
高木・石川組 三位入賞。山田、碓氷組 十六位入賞。渡辺、添谷組 十六位入賞。  
五月・県高校総体兼関東高校県予戦。団体  
高木・碓氷組 優勝。長谷川、添谷組 三位入賞。

木・石川組 三位入賞。山田、碓氷組 八位入賞。渡辺、添谷組 十六位入賞。個人も栃木県代表として、三チーム出場  
六月・全日本高校県予戦 団体三位。  
高木、石川組 優勝。長谷川・添谷組 三位入賞。山田、碓氷組 十六位入賞  
七月・県高校選手権兼国体少年県予戦  
高木・石川組 準優勝(団体出場) 山田、碓氷組 八位入賞  
八月・中部高校選手権  
高木、石川組 優勝。山田、碓氷組 三位入賞。長谷川、添谷組 三位入賞

▽高校二年生大会  
今泉、根本組 八位入賞  
県北選手権大会  
高木、石川組 優勝。山田、碓氷組 準優勝。長谷川、添谷組 三位入賞。  
十月・全国選抜県新人大会  
団体三位。長谷川、根本組 三位入賞。

### 愛の寄金に十一万円

本校生徒会が寄託...  
本校生徒会ではチャリティーバザー収益金の全部を歳末助け合い募金にと、十二月二十一日代表四人が、下野新聞社および栃木新聞社を訪れ、それぞれ寄託した。

を訪れそれぞれ寄託した。  
額は十万三千五百円で、十一月に開催した学校祭の収益金で評議会の話し合いにもとづきこの寄託となったもの。

### やあ、やあ久し振り 調理科一回卒業生の集い

調理科一回卒業生の同級会が、八月十六日午後二時から宇都宮市ロイヤルホテルにおいて催された。出席者十六名、ゲストに手塚築島、愛波の諸先生方が招かれ、野中厚君の司会のもと、自己紹介やら卒業後の感想やら隠し芸の発表など楽しく意義深いひとときを過ごし、再会を約しつつ校歌斉唱のち散会した。

### 花盛りの校内音楽会

ことしの学園は、学内音楽会の花ざかり。まず音楽科は六月十七日を第一回とし、七月二十日、十月十五日、十一月二十六日と四回にわたって開催。普通科音楽コース一年生も二月十八日、二年生が二月二十五日と続いて熱演、好評を博した。

## 生徒会長には丸本経美が

### 副会長、議長団等も決まる

十二月十四日午後一時から、昭和五十三年度生徒会役員立候補者の立会演説、ならびに投票が行なわれた。

即日開票の結果、次の候補者が当選、学校長の承認を得て新会長および副会長はとどおりなく決定した。

会長 八一七票 丸本経美 二の六  
副会長 三五三票 遠藤 浄 二の十二  
副会長 八六五票 伊舟ひとみ 一の六  
その他の役員は次の通り  
議長団 二の七 田代光子  
二の九 小倉幸一  
二の十 小川啓子  
一の三 高橋加津江  
二の十三 糸川悦子  
一の十四 増井ひろみ  
二の四 白井明子  
一の四 柴原聡子

この新役員によって今まで以上に活発な生

徒会になるよう期待して下さい。

### 詩部門で第一位

#### 君島さんが文芸大会で

三年八組君島秀子さんは、去る七月二十四日行なわれた宇都宮文芸家協会主催の文芸大会詩部門において第一位に入選、賞状を授与された。君島さんは入学当時から文芸部に所属作詩に精進していた。

### 二簿記検定合格者

二級 戸崎敦子、添野恵子、三級 上野道子  
園部智加子、糸川悦子、松倉真弓、松本友江  
鈴木洋子、大貫年子、早乙女和子、高橋ひろ子(日本商工会議所主催)

### 校内珠算検定合格者

一級合格 三の十五、大島正江 二級 一の八

### 下野模擬テストに会場提供

十一月二十日(日)本校々庭は、時ならぬ銀輪ラッシュ、何事ならむといふかる通行者——これは来年度高校進学を目指す若者たちの学力を試す、下野新聞社主催の、本年度第一回高校入試模擬テストの会場風景のひとま集まった中三生は二千五百名、中には茨城県古河市からバス六台に分乗して参加した生徒たちもあり、規律正しく、熱心にテストに取り組んでいた。お力の程は……。

### 詩集「手さぐりの青春」

#### 文芸部員が手づくりで発行

今年度学校祭にあたり文芸部では、各部門の作品展示のほか、詩集「手さぐりの青春」を発行した。

B5版四十頁の手作りで、詩の好きな部員たちの作品が好評を博した。一部五十円とぶように売れ切れ。売上はチャリティーバザーの方へ。毎年続けようとはりきっている。

### 楽しく有意義

#### 商業科役員研修会

十二月三、四日の両日第一回商業科後援会役員研修会が那須温泉ホテル愛寿荘において開催された。好天に恵まれた冬的那須野が原の景色もまた格別。

少憩の後午後五時半から研修会に入る。松島副会長の挨拶に次いで、経過報告、商業科現況並びに進路報告があり質疑の後、伊沢先生のヨーロッパ視察特別講話があり、夜の懇親会の楽しさと併せて有意義な会を終えた翌日は南が丘牧場その他を見学、午後二時半帰校した。当日の参加者は次の通り。  
▽松島三、竹沢栄、石川富夫、須藤高、阿久津靖典(父兄側)伊沢雪夫、松本照子、石沢章、信夫享、佐藤良作(学校側)

## 活発な社会奉仕活動

### 主体は学友会各支部

#### 駅の清掃と老人ホームの慰問

##### 鹿沼支部

鹿沼学友会は、鹿沼東中、西中、北中の出身者百二十五名で、女子が百十四名、男子が十一名で構成されている。顧問の先生は、三兵先生をはじめと、今年から、平沢先生、阿部先生が顧問になりました。

この奉仕活動は、十年前登下校中に見る国鉄鹿沼駅が汚れているので駅を利用する人達が気持ち良く利用でき、また、駅員さんを少しでも助けようと先輩達によって始められたもので、この一年間、私達は、先輩の業績を受け継いで、国鉄鹿沼駅の清掃、老人ホーム慰問を行いました。

【鹿沼駅の清掃】毎週土曜日、午後三時から

実施。一、二、三年生を含め、各班十名くらいにして十班編成し、一班ずつ、待合室、ホーム、駅前広場などの清掃を行ない、日誌をつけて、駅長さんにみせて感想を書いてもらいます。始めた時は、恥ずかしいと言いつつ清掃をしていけれど、駅員さんや駅を利用する人達から「苦勞様」などと言葉をかけられると、恥ずかしさも、どこかへいってしまいました。また夏休みと年末には、鹿沼駅の大清掃を一班三十名くらいに編成して行ないました。

【老人ホームの慰問】全員の協力を得て、毎年行なっています。今年も、七月二十五日、三矢先生、平沢先生、阿部先生と女子十名で千寿荘を慰問。みんなから集めた石けん、タオル、雑巾などの慰問品を贈りました。私達は、老人ホームの中を案内してもらいました。案内してくれた女の人が、「学生さ

んに慰問品をいただきましたよ」と言うと、老人は、ニコニコしながら「ありがとうございます。」とお礼を言ってくれた。老人の中には、自分で作ったタバコの空箱の傘を見せてくれて、一生懸命作り方を教えてくれたり、習字を見せてくれる人もいた。老人達は私達の慰問をとても喜んでくれました。

【その他の活動】九月二十四日、産業文化会館で行なわれた鹿沼東中、西中の合同演奏会に花束を贈呈。年末、歳末助け合い募金運動にも協力した。

鹿沼学友会は、募金活動や清掃活動、老人ホームでの調理等、このような奉仕活動を十年間続けてきました。これからも、この奉仕活動を続けてほしいと思います。

(支部長、阿部千恵子  
鈴木弘子)

#### 「下野新聞」から転載 奉仕活動に感謝状

##### 石橋支部

高野石橋町長はこのほど、宇短大附属高校石橋支部(小林玲子支部長)に、十年間にあたる奉仕活動をたたえて感謝状を送った。

同会石橋支部はこの十年間、国鉄石橋駅の清掃をはじめ、町立保育所の除草、清掃奉仕所内の飾り付け、園児たちとの遊戯などで積極的な奉仕活動を行っている。

私達石橋学友会は、例年どおり、保育所慰問を七月二十六日から二十八日の三日間、そして、夏休みの登校日の前日三日間、駅清掃を実施致しました。

保育所慰問では、たくさん幼ない子供達とおまじり接する機会がなかった私達は、「どうしたら、幼ない子供達と仲良く出来るだろう。」

という不安を胸にいだきながらも、鉄棒や、ブランコに乗ったり、スイカ割をしながら、子供達と一緒に遊んだり、七夕の日の為の飾り物を作ったり、所内の清掃をしたりして、三日間は、あっという間に過ぎてしまいました。ただ、今までに、自分の知らないいろいろなことを学べたこと、また、

「おねえさん、おねえさん」と、あまり言われたことのない言葉には、ちょっぴり、てれくさいような、はずかしいような気もしましたけれど、それでも、子供達が、私達を頼ってきてくれたことは、とても、うれしく思いました。この三日間という短い時間は、とても充実した毎日だったと思います。



町長さん(中央)と揃って記念撮影